合同会社 結 creation

もっと知りたい！茅渟の海と鳩の湖・なかをとりもつ淀川の流れ

実施期間：2024 年７月１日（火）～2025 年３月 31 日（火）

岸和田漁港でのヨリカス調べ
(2024 年３月 15 日)

海の環境教育フォーラム
（2024 年 10 月 12-14 日）

琵琶湖での甲殻類調査
（2024 年 10 月 10 - 11 日）

琵琶湖の模型作り
（2024 年９月 23 日、３月 16 日）

【事業の内容・目的】

■本事業は、①学びの基礎となる水系での生態および文化に関する調査の実施、②調査結果に基づいた普及プログラムの開発・展開の２段階で取り組んでいく。「水と人との関わり」「流域から海へのつながり」を知る・感じる・学ぶ機会の創出を目指し、流域全体から海へのつながりを考える起点に事前調査結果を置き、現状の課題に合わせた学習機会の創出をする。体験型の学習や現地見学を実施し、知識と経験の両方を得ることを目指す。

■事業は大きく３つの視点から実施し、琵琶湖淀川水系と大阪湾の関係について学ぶ教育プログラムを、流域の博物館や行政と連携・協働しながらおこなう。

①水系生態現地調査、②調査結果を活用したプログラム開発と試行
③これまでの実績を活かしたプログラム展開とネットワーク構築

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

活動の様子

１． 題材の検討およびプログラム開発

【開催日時】2024 月９月 16 日～2025 年２月１日
【開催場所】琵琶湖（瀬田川、沖島）、淀川（花川干潟、矢倉干潟）、大阪湾（岸和田漁港、深日漁港）、阪南２区人工干潟、城ヶ崎海岸、成ヶ島他）、琵琶湖ベース
【参加者数】のべ 20 人
【活動内容・目的】
●淀川水系、大阪湾は私たちにとって身近な存在であるが、環境や生き物の多様性について学ぶ機会はごく限られている。また流域全体から海へのつながりを考える時、地域の持つ多様性を知ることは重要である。
●本調査では、甲殻類に焦点をあて流域の生物多様性を明らかにすることを目的として、琵琶湖、淀川、大阪湾各地で採集を行い、水系ごとで甲殻類の標本作成を行った。

淀川河口の花川干潟での調査
（2024 年９月 16 日）

淀川河口の矢倉干潟での調査
（2024 年 10 月 25 日）

淡海湖とつながる河川での調査
（2024 年 10 月 10 日）

淡海湖とつながる河川で見つかった
ウチダザリガニ
（2024 年 10 月 10 日）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

海津漁港でのエビタツベ漁調査
（2024 年 10 月 11 日）

エビタツベ漁調査で見つかった
アナンデールヨコエビ
（2024 年 10 月 11 日）

淡路島由良漁港でのカゴ網調査
（2025 年 1 月 31 日）

成ヶ島での夜潮調査
（2025 年 2 月 1 日）

場所は、琵琶湖では淡海湖とつながる河川（滋賀県高島市今津町）、安曇川、海津漁港（高島市マキノ町）、淀川流域ではおよび花川干潟、矢倉干潟、大阪湾では岸和田漁港（大阪府岸和田市）、福島海岸（阪南市）、深日漁港（泉南郡岬町）、城ヶ崎海岸（和歌山県和歌山市）、成ヶ島（兵庫県洲本市）で、甲殻類の生息状況の記録に加えて、本事業で使用する普及教材用の標本を採集した。

琵琶湖での採集に際してはびわこベースの関慎太郎氏のガイドのもと、採集場所を選定した。採集した甲殻類はきしわだ自然資料館、貝塚市立自然遊学館にて標本化を行った。

淀川水系を学ぶ甲殻類標本のキット

甲殻類標本の一例

甲殻類の採集は高槻市立自然博物館、滋賀県立大学、びわこベース、兵庫県栽培漁業センターの職員、大阪市立自然史博物館外来研究員と合同で実施し、普及用プログラムの内容についても意見交換を行った。作成した普及用教材は事業②のワークショップ等で試行的に運用し、必要に応じて標本にする種の検討を行った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

２．成果を活かしたプログラムおよびツール開発と実施

【開催日時】2024 年８月２日、８月 25 日、９月 22 日、９月 23 日、
10 月 12-14 日、2025 年２月 27 日、３月 16 日
【開催場所】たつの市立新宮図書館、草津市立水生植物公園みずの森、
あすたむらんど徳島、びわこベース、アクアマリンふくしま
【参加者数】179 人
【活動内容・目的】

●昨年度の調査した二枚貝を題材に、実施する地域の生息状況を知り、次のステップで水系全体での状況へと視野を広げられるプログラムを企画・実施して海までの一連のつながりを学ぶプログラムを２本。生息環境について考えてもらうために地形に着目したプログラムを１本企画し、水系を中心とした海の学びができる環境設定を試みた。

●既存のプログラムをこれまでより広めるために、実施範囲を広域へと拡大し、活動の周知と水系の周辺地域と海を介したつながりを意識することにも取り組んだ。

●海での学びをテーマとした「海辺の環境教育フォーラム 2024」、水系の先にある大阪湾を中心とした「大阪湾フォーラム」へ参加し、活動の紹介とネットワークの拡大・充実に向けて情報交換の機会を持った。

たつの市立新宮図書館でプログラム実施
（2024 年８月２日）

草津市立水生植物公園みずの森でプログラム実施
（2024 年８月 25 日）

あすたむらんど徳島でプログラム実施
（2024 年９月 22 日）

海の環境教育フォーラムでプログラム実施
（2024 年 10 月 12-14 日）

既存のプログラムである「チリメンモンスターをさがせ」を、水系とは直接の接点が少ない場所や、これまであまり共同で開催する機会が少なかったところで実施した。プログラムの進行を進める中で、本事業の紹介や目指している水系全体に視野を広げ、地域同士のつながりなどについて、海をキーワードとして伝えることができた。

琵琶湖の模型作り実施
（2025 年３月 16 日）

二枚貝のハンカチづくり実施
（2025 年２月 27 日）

海の環境教育フォーラムでポスター発表
（2024 年 10 月 12-14 日）

大阪湾フォーラムで口頭・ポスター発表
（2025 年３月８日）

本事業で新しく水系の二枚貝をテーマに、環境や地域別にどのような会が生息しているのかを標本を観察しながら考え、ハンカチにスタンプで学んだことを表現していくプログラム。水系を地形の面から捉えることをねらいとし、模型を作るプログラムの２つを企画・実施した。どちらもそれぞれの地域や環境を起点として、水系の他の地域を比較することや共通項を考えることのきっかけづくりになるのではないかと感じた。

また、海での学びをテーマとした「海辺の環境教育フォーラム 2024」、水系の先にある大阪湾を中心とした「大阪湾フォーラム」へ参加し、活動の紹介とネットワークの拡大・充実に向けて情報交換の機会を持った。

【参加者の声】

○回答内容Ａ
　つながっているなぁ。他人事じゃないと思った。

○回答内容Ｂ
　いつも美じかにある大阪湾と琵琶湖のふしぎなつながりを感じます。

○回答内容Ｃ
　子どもたちへの学びの提供をしてみたいと思いました。

活動の様子

3. 既存のプログラム展開と体験型学習の機会の創出

【開催日時】2024 年７月 15 日、11 月 24 日、12 月７日、12 月８日、2025 年１月 25 日、３月８日、３月９日、３月 15 日、３月 20 日

【開催場所】きしわだ自然資料館、岸和田漁港、岸和田市立公民館、木材コンビナート、阪南２区埋立地（以上大阪府岸和田市）、湖北野鳥センター（滋賀県長浜市）、服部川河床、伊賀市大山田 B&G 海洋センター（三重県伊賀市）　びわこベース、和邇漁港（滋賀県大津市）

【参加者数】　　608　　人

【活動内容・目的】

●琵琶湖・淀川・大阪湾で立案したプログラムを実施するとともに、海、川、湖が繋がっていることを実感できる事業に発展させ、身近なフィールドと他の水系との繋がりを体験しながら学べるようにした。

●琵琶湖とチリメンモンスターとの関係、琵琶湖のできはじめを川の地質から学ぶ事業、大阪湾の漁獲物から見る川と湖の関係などを紹介した。

古琵琶湖層群の化石採集
2025 年３月 20 日

チリモン 20 年　大阪湾フォーラム
2025 年３月８日

琵琶湖の漁業体験
2025 年３月 15 日

岸和田漁港だんじり祭
2024 年 11 月 32 日

海の日ラボ・琵琶湖と大阪湾の貝観察
2024 年 7 月 15 日

海鳥っぷシンポジウム
2024 年 12 月7日

今回は、既存のプログラム展開を行いつつ、海と川、湖のプログラムを組み合わせて同時に体験することによって、そのつながりをより理解できるようにつとめた。また、大阪湾フォーラムや海鳥っぷシンポジウムなど、すでに海や水系について興味があり独自で活動している方を対象とした事業も行い、今後の海の学びの指導者になるよう留意した。

琵琶湖の鳥の観察会
2025 年 1 月 25 日

チリモン楽しむ Day
2025 年 3 月 9 日

きしわだ自然資料館および友の会が考え出した海の学びプログラム「チリメンモンスター」は、海だけではなく栄養塩の視点から水系や湖、漁業の視点からは産業、餌生物や食物網の観点から鳥などの生物、地質などにもつなげられることから、今回は、チリメンモンスターさがしに終始するのではなく、他の視点も考えられるようなプログラムづくりを心がけたところ、幅広い興味をもつ方がプログラムに参加したと考えられる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

昨年度より取り組んでいる【活動のベースとなる情報収集】としての水系生物調査の結果→【エビデンスを持って企画するプログラム】として新しくプログラムを開発→【作ったプログラムを広め、定着させる】ための各地での実施 の一連の流れが本格的に起動することができた 1 年だったと考えている。それぞれの活動の成果も当初の計画と大きく変更等することもなく取り組めたのはよかった。プログラム参加者も増加してきたため、淀川水系のつながりを感じてもらい、関心を広めていきたいというねらいはある程度達成できたのではないかと感じている。

また、他地域の方などにも本事業についてお伝えできる機会が得られたことで、関心を持ってもらえたと同時に、さまざまな意見をいただくことにもなった。今回得た意見は、今後の課題として共有し、さらなる発展に向けて改善・実施していきたい。

昨年度は調査結果を一般向けの報告書として冊子化することができた。今年度は、プログラムとして実施していく中で課題であった「二枚貝の生態」をわかりやすくどのようにして伝えていくかということに着目し、子どもたちが興味を持ちやすいような絵本を学生が主体となって冊子化することができた。このことは活動を継続していくうえでも重要なポイントである「人材育成」にも寄与できるモデルになったのではないかと考えている。

さまざまな立場の人が集い、活動を続ける中で、自分なら何ができるか／やりたいかを考えて選択できるような環境づくりを今後も続けていきたい。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．貝塚市立自然遊学館	活動①調査企画、コーディネート
2．高槻市立自然博物館	活動②調査実施、活動②プログラム企画
3．大阪府立環境農林水産総合研究所	活動②絵本監修、活動③魚類生態講師
4．滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 瀧研究室	活動②絵本作成、イベント補助
5．びわこベース	活動①調査コーディネート、活動②③イベント実施

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．読売新聞大阪版朝刊	めずらしい貝みつけたよ　2024 年 11 月 25 日
2．	
3．	
4．	
5．	

以上